

ショパン 200年の肖像

‘ピアノの詩人’と呼ばれるポーランド出身の作曲家、フリデリク・ショパン(1810-1849)。その優美繊細なメロディの数々は、私たちに馴染み深いものです。一方で、彼の生きた時代や、その人物像は一体どのようなものだったのでしょうか。今回の展覧会では、遺された自筆譜をはじめとする数々の資料から、混迷する19世紀前半のワルシャワやパリで生き、愛し、音楽の可能性を追求したショパンの実像に迫ります。生前から現在までのショパンの肖像、彼が暮らした都市、周辺の人々、日本でのショパン受容、その名を冠したピアノコンクールなど展示資料の総数は約250点。特に、「エチュード」(作品10-8)などポーランド国外に出ること自体が珍しい楽譜や手紙は必見です。日本とポーランドの国交樹立100周年を記念する展覧会として、日本初公開品を含む貴重な資料や絵画、ポスター、書籍といった多彩な展示から、年月を経てさらに輝きを増すショパンの魅力をお楽しみください。

展覧会名	ショパン 200年の肖像
会期	2020年2月1日(土)～3月22日(日) 月曜休館(ただし、2月24日は開館)
作品数	約250点
会場	久留米市美術館(本館2階)
主催	久留米市美術館、読売新聞社、RKB毎日放送
共催	国立フリデリク・ショパン研究所
特別助成	公益財団法人石橋財団
後援	駐日ポーランド共和国大使館、日本ショパン協会、久留米市教育委員会
特別協力	ポーランド広報文化センター、ワルシャワ国立博物館、ドルトレヒト美術館
協力	LOTポーランド航空、KLMオランダ航空、大阪音楽大学、講談社、株式会社河合楽器製作所、株式会社ヤマハミュージックジャパン
企画協力	神戸新聞社、ROBINS
入館料	一般1,000円(800円) シニア700円(500円) 大学生500円(300円) 高校生以下無料 ※()内は15名以上の団体料金、シニアは65歳以上 ※前売券600円あり(チケットぴあ・ローソン等)
開館時間	10:00-17:00(入館は16:30まで)
交通案内	JR博多駅よりJR久留米駅まで新幹線で20分、快速で40分 福岡(天神)駅より西鉄久留米駅まで特急で30分、急行で40分
本展に関するお問い合わせ	久留米市美術館(公益財団法人久留米文化振興会) 展覧会担当: 佐々木奈美子 広報担当: 中山 〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015(石橋文化センター内) TEL0942-39-1131 / FAX0942-39-3134

展覧会の構成

第1楽章 わたしたちのショパン

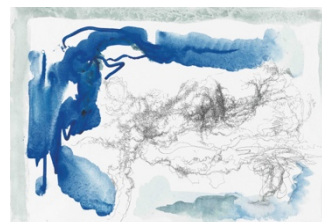
ショパンってどんな人？ 第1章では、彼の音楽からインスピレーションを得た作品や、過去2世紀の様々なショパンの肖像を、ポーランドの国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館の所蔵品によって紹介します。造形化されたショパンのイメージは、実に多彩。ショパンにまつわる音楽コンクールのポスターのほか、明治期に輸入された楽譜など、ヨーロッパだけではなく、日本でもショパンの音楽が愛され、どのように知られていったのかを示す資料も展示します。



① 《ラジヴィウ公のサロンのショパン、1829》
1888年 NIFC



② 《王立ワジェンキ公園のフリデリク・ショパン記念像胸部》 1968年 NIFC



③ ヴェイスフロク 《ピアノ協奏曲第1番》
2011年 NIFC

第2楽章 ショパンを育んだ都市ワルシャワ

1810年にポーランドのジェラズヴァ・ヴォラで生まれ、まもなく家族とともにワルシャワに移ったショパン。わずか7歳でポロネーズを作曲した音楽的才能は、芸術・文化が盛んなポーランド・ワルシャワで、家族や周囲の人々に見守られながら豊かに育まれました。1830年11月、二十歳のショパンがウィーンに旅立った直後に、ロシアの支配に対する反乱「十一月蜂起」が起ります。その後二度と戻れなかった故国ポーランドの風景や、ショパンの周辺にいた人々など、ワルシャワでの音楽活動や生活を紹介します。



作者不詳 《ユゼフ・エルスネルの肖像》
19世紀前半頃 NIFC



④ ザレスキ 《ワルシャワ、聖十字架教会の祭壇》
19世紀中頃 MNW



⑤ ディートリヒ 《ワルシャワ市内クラシンスキ広場の眺め》
1827-29年 NIFC

第3楽章 華開くパリのショパン

ショパンの才能が大きく華開いたのはフランス・パリでした。ピアニスト、そして作曲家として成功したショパンは、リストをはじめとする当時の音楽家たちや、画家のドラクロワ、生活を共にすることになる作家ジョルジュ・サンドなど各界の名士と出会います。《ショパンの肖像》を描いたアリ・シェフェールによる日本初公開の絵画など、当時の様子を伝える絵画・版画からは、19世紀前半の都市パリの文化的背景をうかがうことができます。サロンやオペラ座の様子、交

流を持った人々など、まさにショパンが生きた時代のパリの諸相をご覧ください。



⑥アリ・シェフェール《フリデリク・ショパンの肖像》1847年



⑦ランメ《アリ・シェフェール邸》1850年 DMH



⑧オレシュチンスキ
《ジョルジュ・サンドの肖像》1850年頃 NIFC

第4楽章 真実のショパン 一楽譜、手紙一

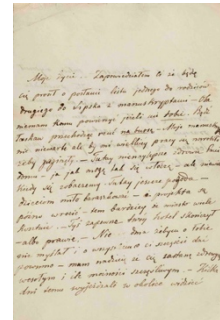
ショパン自筆の楽譜や手紙が展示されます。所蔵しているショパン博物館でも公開が限られている、まさにポーランドの至宝であり、間近に鑑賞できる機会は極めて稀といえるでしょう。整然とした筆跡が印象的な手稿譜は必見です。また、ショパンは殆ど文章を残しておらず、親しい人に宛てた手紙は、人間・ショパンの姿を知る重要な手がかりとなっています。彼の身近にいた人たちが描いたショパンの肖像も、この章で展示します。



⑨ショパン自筆譜（製版用）
「エチュード へ長調 作品 10-8」1833年以前 NIFC



⑩《ショパンの左手像》1968年鑄造
NIFC



⑪ショパン「ヴォイチェフ・グジマワ宛書簡」1843年10月 NIFC

第5楽章 ショパン国際

ピアノコンクール

1927年に創設されたショパン国際ピアノコンクールは、現在開催されているものとしては、最も歴史ある音楽コンクールです。開催は5年に1度で、2020年に行われるコンクールが第18回となります。コンクールの告知ポスターは、毎回、ポーランドを代表するグラフィック・デザイナーが手がけ、多くの注目が集まります。本章では、コンクールの歴史と、現代ポーランド・グラフィックをご覧ください。



ユゼフ・マルキエヴィチ《第10回ショパン国際ピアノコンクールのメダル（金メダル）》1980年 NIFC

トマシュ・シュレツキ《第14回ショパン
国際ピアノコンクール》2000年 NIFC



ヘンリク・トマシェフスキ《第10回ショパン国際ピアノコンクール》1980年 NIFC

*NIFC=国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館/MNW=国立ワルシャワ博物館/DMH=ドルトレヒト美術館

Collaboration ピアノの森



©一色まこと / 講談社

まんが「ピアノの森」は、困難な環境で育ったピアノの天才少年が、良き指導者や周りの人々に支えられ、ショパン・コンクールを目指すストーリー。作者一色まこと氏による貴重な原画を通して、その奥深い魅力をご紹介します。

*1998年から2015年まで講談社の漫画雑誌に連載され、2018年と2019年にはTVアニメがNHKで放送されています。

関連事業

① 平野啓一郎氏記念講演会 共同ホール／要申込み

ショパンの人と音楽 小説『葬送』を巡って

日時：2020年3月7日（日）14:00-15:30

聴講無料（要申込み：2月4日まで）

*申込み方法：参加希望者の氏名（4名まで可）と代表の方の住所、氏名、連絡の取れる電話番号を記入の上、ハガキまたはFAXで久留米市美術館（記念講演会係）へ。応募多数の場合は抽選
*結果は2月12日（水）までに応募者全員にお知らせします。



撮影：瀧本幹也

② プレ公演 石橋文化ホール／チケット販売中

ヤブウォンスキ・ピアノリサイタル ポーランドの巨匠 ショパンを弾く

日時：2020年1月13日（月・祝）13:00（12:30開場）-15:00

ピアノ：クシシュトフ・ヤブウォンスキ氏

チケット代金：一般3,000円、大学生以下1,500円（全席指定）



③ レクチャーコンサート① 石橋文化ホール／チケット販売中

ショパンの「ポロネーズ」そのリズムの源泉 ～宮廷舞踏ポロネーズ～

日時：2020年2月16日（日）13:00（12:30開場）-15:00

ダンスとお話：浜中康子氏 チェロ：中木健二氏 ほか

チケット代金：一般2,000円、大学生以下1,000円（全席指定）



④ レクチャーコンサート② 石橋文化ホール／チケット販売中

ショパン ～誕生から二十歳の旅立ちまで～

日時：2020年2月16日（日）14:00（13:00開場）-16:00

お話：関口時正氏（翻訳家、東京外国語大学名誉教授）

ピアノ：小早川朗子氏

チケット代金：一般2,000円、大学生以下1,000円（全席自由）



*②～④のチケット販売：石橋文化センター、同情報サテライト、木下楽器店、ローソンチケット、チケットぴあ



⑤ みゆ〜ず・メンバーシップ講座 石橋文化会館小ホール／要申込み

早わかり ショパン-39年の生涯

日時：2020年2月20日（土） 14:00 -15:00

講師：佐々木奈美子（当館学芸員）

参加費：みゆ〜ず・ミュージアム会員 無料

（みゆ〜ず・スタンダード会員 500円／一般 1,000円）

*申込み方法：事前に電話（0942-33-2271）もしくは石橋文化センター友の会窓口にて直接予約。

⑥ 担当学芸員によるギャラリートーク

日時：2020年2月1日（土）／3月15日（日） 14:00 -15:00

集合場所：本館2階エントランス *要展覧会チケット

関連事業に関するお問合せ

記念講演会、ギャラリートーク：久留米市美術館 0942-39-1131

<https://www.ishibashi-bunka.jp/kcam/>

レクチャーコンサート、みゆ〜ず・メンバーシップ講座：

久留米文化振興会 0942-33-2271

<https://www.ishibashi-bunka.jp/>

作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
6. 掲載見本を必ず1部お送りください。